



東北慢性疾患看護研究会

責任者：内海 香子 共同者：藤澤 由香

令和7年度岩手県立大学看護実践研究センター事業

・活動の概要

岩手県立大学大学院看護学研究科慢性疾患看護専門看護師（以下、慢性CNS）コース修了者や、慢性疾患患者のケアに携わる看護職者を対象に、質的統合法（KJ法）の研修会と「ベナー/ルーベル 現象学的人間理解」の視点による事例検討会を行いました。

・活動の成果

1. 質的統合法（KJ法）の研修会
5月10日、5月11日、5月24日実施。
参加者：初心者研修19名 指導者研修STEP2 5名
山浦晴男先生を講師に、講義と演習に取り組みました。
2. 「ベナー/ルーベル 現象学的人間理解と看護」の視点からの事例検討 12月13日実施
参加者 7名
片方腎で透析を受ける患者様の事例を、岩手大学人文社会学部 音喜多信博教授と一緒に検討しました。
CNSの認定単位更新用に研修プログラムに関する証明（事例検討会等の参加証明書）を発行しました。

●ベナー/ルーベル 現象学的人間理解と看護」の視点からの事例検討のアンケート結果

回答者3名

＜参加目的＞（複数回答）

テーマに関心がある 1名

慢性疾患看護の知識を広げたい3名

＜事例検討について＞

大変役立つ 2名 役立つ1名

＜感想＞

- ・患者さんを全体的にとらえるという視点に立ち返る機会になっている。
- ・先行きの不確かさがある患者に対し、日々のケアでどのような態度で接するのか、大変考えさせられた。
- ・参加者と事例の検討や看護の視点の共有が学びとなった。患者の今と今に至るまでどの様に意思決定してきたのか考えさせられた。